

小学校第6学年家庭科指導案

1. 題材名

1年生と交流会～一緒に調理をしながら自分の成長を振り返ろう～

2. 学校種・学年・領域

小学校・第6学年・「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」

3. 題材の目標

(1) 家庭科としての目標

- 1年生と交流の時間をとることで、自身の成長を自覚し、低学年の児童との関わり方を考えることができる。
- 1年生との調理に向けて、調理計画を工夫し、適切な方法で調理することができる。

(2) 汎用的スキル

- 自身が1年生だったときのことを思い出して、自身の成長を自覚し、低学年の児童との関わり方を考えることができる。(メタ認知力)
- 1年生の気持ちや行動を予測し、実習や交流会の計画を立てることができる。(先を見通す力)
- 班で協力しながら調理計画を立て、調理実習や交流会を進めることができる。(協働する力)

(3) 態度・価値

- 班の仲間と協力し、上級生としてリーダーシップを発揮しながら、1年生と調理実習や交流会に取り組むことができる。(協力しあう心)
- 1年生の気持ちに寄り添いながら調理実習に取り組み、低学年の児童の気持ちや行動を理解して、関わり方を工夫することができる。(他者に対する受容・共感・敬意)

4. 生徒の実態

本校では、特別活動のなかで1年生から6年生までの縦割り班活動を行っており、学期に数回一緒に遊んだり給食を食べたりしている。6年生は、グループのリーダーとして下学年の児童と関わっているが、1年生とペアで長時間関わる機会は少ない。本学級の児童は、1年生が入学し、休み時間に一緒に遊んだり、給食のお手伝いをしたりと進んで1年生と関わろうとしている姿が見られた。事前に行ったアンケートでは、1年生と関わって嬉しかったこととして、「名前で呼んでくれた」「たくさん話しかけてくれた」などがあがった。その一方で、1年生と関わって困ったこととしては、「話を聞いてくれない」「好奇心旺盛で、すぐにどこかに行ってしまう」などがあり、歳の離れた1年生とどう関わったらよいか分からなかったり、1年生が悪いことをしたときに注意できずに悩んだりしている子供も多にいる。

5. 題材について

①教科から見た特性

平成29年の学習指導要領改訂により、新たに小学校家庭科でも、幼児又は低学年の児童との関わりができるよう配慮することが求められている。本題材では、子供たちが1年生と関わったり自分が1年生だったころを思い出したりすることで自分自身の成長を実感し、関わり方を考えさせたい(A 家族・家庭生活)。また、調理計画の立て方や、適切な調理技術についても身に付けさせたい(B 衣食住の生活)。なお、本題材は、1年生の生活科との連携を図り、計画した。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点からみた特性

本題材では、1年生と一緒にスイートポテトの調理し、交流会を開く。自分たちが1年生だった頃や日頃の1年生との関わりを振り返ることで、自身の成長に気付き、低学年の児童との関わり方を考え、メタ認知力が育まれる。また、1年生の気持ちや行動を予測しながら、調理計画を立てることで、先を見通す力が育まれるとともに、班の仲間と相談しながら調理計画を立て、調理実習や交流会に取り組むことで協働する力が育成される。さらに、1年生との調理実習や交流会を通して、協力し合う心や他者に対する受容・共感・敬意が育まれることが期待される。

6. 題材計画と資質・能力を育成する主な手立て(全7時間 本時4/7時間)

	学習活動	関連する 主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (1時間)	・1年生の頃を思い出してみよう。	○メタ認知力	○自分たちが1年生だった頃の写真を見たり、1年生との関わりを振り返ったりして、違いや自身の成長を感じる場の設定。
第2次 (2時間)	・スイートポテトを作って、調理方法を確認しよう。(調理実習)	○先を見通す力 ○協働する力	○事前に調理実習に必要な知識や技術を身に付ける場の設定。 ○協働が生まれやすい活動の設定。
第3次 (1時間)	・調理と交流会の計画を立てよう。	○メタ認知力 ○先を見通す力	○自身の成長を意識し、自身の行動を振り返る場の設定。

		○協働する力 ○他者に対する受容・共感・敬意	○調理実習や交流会をより良くしたいという場の設定。 ○他者との学び合いの場の設定。 ○1年生の気持ちや行動など、他者の視点から考える必要のあるテーマの設定。
第4次 (2時間)	・1年生と調理をして、交流会を開こう。	○メタ認知力 ○協働する力 ○協力し合う心 ○他者に対する受容・共感・敬意	○調理実習や交流会をより良くしたいという場の設定。 ○協働が生まれやすい活動の設定。 ○1年生と一緒に行動し、他者の視点から考える必要のあるテーマの設定。
第5次 (1時間)	・交流会を振り返ろう。	○メタ認知力 ○他者に対する受容・共感・敬意	○他者との学び合いの場の設定。 ○1年生の気持ちや行動など、他者の視点から考える必要のあるテーマの設定。

7、本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・スイートポテト作りを踏まえて、1年生と調理をする際に気を付けることや、どの様に作業したらよいかを考え、適切な調理計画を立てることができる。
- ・交流会に向けて、1年生に楽しんでもらうための工夫を考えることができる。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 5分	○前時のスイートポテト作り(調理実習)を振り返る。	◇前時までの学習を思い出させる。(学習内容自身の行動を振り返る場の設定：メタ認知力)
展開 30分	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">1年生に楽しんでもらう交流会の準備をしよう！</p> <p>○調理実習を振り返り、気付いたことを各自が挙げていく。 ・トースターを使用するときに、やけどをしそうで危なかった。 ・形を作るのは楽しかった。</p> <p>○班で、1年生との調理実習に向けた調理計画を立てる。(それぞれどの様に動いたらよいか、1年生に楽しんでもらうための方法は) ・形を作るのは楽しかったから、1年生にやってもらおう。 ・トースターは危ないから、ちゃんと6年生と一緒にするようにしよう。 ・片付けは、1年生でもできるかな。</p> <p>○各班でまとめた内容を発表する。</p> <p>○調理計画以外の1年生との関わり方について、不安な部分を共有し解決していく。 ・途中で飽きてしまわないかな。 ・目線を合わせて話せば、ちゃんと言うことを聞いてくれると思う。 ・話しかけるときは、どんな言葉を使ったら分かりやすいかな。 ・笑顔で話しかけるようにしよう。</p>	<p>◇調理実習で難しかった点、危険な点、楽しかった点を、各自が付箋に書き出していく(付箋1枚に1項目)。各自が記入した付箋を全体で共有し、調理工程別に整理する。(自身の考えや行動を振り返る場の設定：メタ認知力)</p> <p>◇縦割り班に分かれ、各班が1つの調理工程を担当し、調理計画を話し合う。(他者との学び合いの場の設定：協働する力、より良くしたいという場の設定：先を見通す力)</p> <p>◇「6年生として」「1年生として」「楽しんでもらうために」の3つの観点から、どの様な動き方や関わり方をしたらよいかを考える。(他者の視点から考える必要のあるテーマ設定：他者に対する受容・共感・敬意)</p> <p>◇全体で共有することで、他の調理工程における計画を理解する。(他者との学び合いの場の設定：協働する力)</p> <p>◇第1次の板書の画像を示し、日頃の1年生との関わり方の中で困っていることや不安なことを再認識させる。(自身の考えや行動を振り返る場の設定：メタ認知力)</p> <p>◇1年生の気持ちや行動を考えて、どの様に関わったらよいかを、全体で考える。(他者の視点から考える必要のあるテーマ設定：他者に対する受容・共感・敬意、より良くしたいという場の設定：先を見通す力)</p>
まとめ 10分	○今までの授業を踏まえて、考えたことをまとめる。 ・難しい言葉だとわかりにくいから、簡単な言葉を意識して話しかけたい。	◆スイートポテト作り(調理実習)を踏まえて、1年生に楽しんでもらうための工夫を考えたか。

